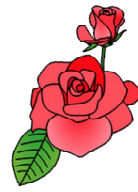


教育センターだより

～第103号～



令和5年 5月24日発行

佐野市教育センター

佐野市上羽田町1134番地1

☎ 20-3108

20-3048(相談専用)

「メディアリテラシー教育」の重要性

佐野市教育委員会教育長 津布久 貞夫

「佐野市立学校1人1台端末の効果的な活用に向けた指針」の策定

2021年度、GIGAスクール構想の進展により、佐野市では、児童生徒1人1台端末と高速ネットワーク環境の整備が完了し、2022年3月には全教職員への指導者用端末の整備が完了しました。この間、2021年9月には、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う臨時休校への対応として全校一斉のオンライン学習を実施し、Web会議システムを含むクラウド利用が普及しました。その後、佐野市教育委員会では、2022年9月に、端末をより一層、効果的に活用した教育を進めることを目的として、「佐野市立学校1人1台端末の効果的な活用に向けた指針」を策定しました。

「メディアリテラシー教育」の重要性

2022年度、佐野市立学校における児童生徒及び職員の「1人1台端末」の活用は、大きく進展し、佐野市教育センター発行の「GIGA通信」に数多くの実践例が報告されました。

一方で、児童生徒を取り巻くメディア等の情報環境は、日々大きく変化しています。山脇岳志氏によれば、2016年のアメリカ合衆国の大統領選挙の頃からフェイクニュースが急激に社会に広がったといます。新型コロナ感染症の拡大においてもフェイクニュースや陰謀論が広がったと指摘しています。(註1) フェイクニュースや陰謀論の拡大は、メディアや世論の分断を招き、民主主義国家の根底を揺るがしかねないと

も言われています。こうした社会情勢の中で生きていくためには、「メディアリテラシー」を備えることが不可欠であると多くの識者が指摘しています。すでに、児童生徒の情報教育を担う教職員は様々な方面から、こうした課題に取り組んできたところですが、今、まさに「メディアリテラシー教育」の重要性を再認識しなければならないと考えます。

「メディアリテラシー」の3つのポイント

山脇氏によれば、今、注目されている「メディアリテラシー」には、3つのポイントがあるとしています。

- ①全てのメディア・メッセージ(情報)は、再構成されていることを意識する。
- ②クリティカル・シンキング(熟慮的、内省的な思考)の大切さを自覚する。
- ③メディアの仕組みについて理解する。(見たいものしか見えなくなる現象、アルゴリズムによるフィルターバブルに注意する。)

世の中に出回っているちょっと変わった実際の情報を目の前にして、それが正しい情報か虚偽の情報かを判断することは非常に難しいものです。私たちは、そういう時代を生きています。「メディアリテラシー教育」も常にバージョンアップしながら、時代に合ったスキルを身に付けた児童生徒の育成に力を入れなければならないという思いを強くしています。

(註1)山脇岳志氏「内外情勢調査会 講演」令和5年4月25日